市政に関する 一般質問の概要

ごみの減量化について

創志会　藤澤　菊枝

問 ごみは市民生活において必ず排出されるものです。ますますにぎわいを増す海老名市において、ごみ排出量の削減は重要な課題であることを認識しているところです。

そこで、ごみの減量化の取り組みについての考えと現在の進捗状況について伺います。

答 **（市長）**…人口の増加や、新たな商業施設のオープンなど、まちのにぎわいが増している本市では、ここ数年、ごみの排出量は増加傾向にあります。減量化策は喫緊の課題であり、まさに今、将来を見据えた中で、しっかりとしたごみの減量化に取り組む必要があると考えています。

そこで環境審議会へごみの減量化策について諮問し、有料化と戸別収集も含んだ中間答申をいただきました。この中間答申に対して広く市民の皆さまから意見をいただくため、全自治会を対象に説明会を実施しているところです。

問 今後、どのように減量化、有料化について進めていくのか、市の見解を伺います。

答 **（市長）**…有料化については、ごみの処理費や収集の費用などの一部をご負担いただくことを考えており、これは同時にごみ減量化に対する市民意識の向上にもつながります。今後の行政活動には、市民みずから何をやるべきなのか考えることも必要で、今回のごみの減量化は、そのいい機会だと思っています。

この減量化については、環境審議会で議論いただいておりますので、その結果を見て、十分に説明を果たしていきたいと思っています。市民の方の理解と納得に向けて努力をしながら、最終判断をすべきだと思っています。

その他の質問

・ひとり親家庭への支援について

南部地域のまちづくりについて

創志会　森下　賢人

問 有馬高校の付近一帯は有馬耕地と呼ばれる風光明媚な水田地帯です。この有馬耕地など市の南部地域の多くは市街化調整区域に位置付けられ、農地法などで土地利用は厳しく制限されていますが、物流効率化法によって農地の所有権移転が可能になり、一団の農地が物流拠点に姿を変え良好な水田地帯が失われつつあります。

企業の経済活動や所有権移転自体に異論はありませんが、このまま農地の転用が続いていくことに、市としてどう対応していこうとしているのか考えを伺います。

答 **（市長）**…規制緩和の流れにより、効率的な物流拠点として交通アクセス性の高い南部地域が脚光を浴びています。一方で日本の農業は収益性が低く、従事者の高齢化、担い手不足などを要因として農地の転用や売却が進んでいますが、この流れを止めることは大変難しい問題です。

農業の集団化、集約化などにより営農の継続意欲や収益性の向上につながる施策展開が必要だと考えています。

また、来月から施行される住みよいまちづくり条例の中で、開発に伴う地域への配慮の規定に基づき、周辺への影響が極力抑えられるよう努めていきたいと考えています。

答 **（まちづくり部長）**…住みよいまちづくり条例では大規模開発事業に該当した場合、地域へ配慮するまちづくりとして周辺住民の方などに対する説明会の開催を義務付けています。さらに、説明会開催後に周辺住民の方などは意見書を提出できるなど、今まで以上に市として協議などの対策を講じることが可能になります。物流効率化法の認定を受けた施設の立地を止めることは困難ですが、この条例などに基づいて周辺の農地などに十分配慮した指導などに努めたいと考えています。

その他の質問

・市庁舎管理について

・水害への対策について

小・中学校の運営及び設備等について　ぬくもり号の運行について

創志会　鶴指　眞澄

問 教育部が今年の2月にえびなこどもセンターに移動されました。移動によって、どのような効果を求めているのかを伺います。

答 **（市長）**…えびなこどもセンターは、乳幼児から義務教育までの子育て支援を総合的に切れ目なく推進するために設置するものです。

答 **（教育長）**…子育て・教育部門を統合して、子どものライフステージに対応した子育て支援を総合的に行う場所になることで、まさに子どもの成長と子育て中の市民を中心に据えた行政サービスが展開できるといった効果があると考えます。

問 コミュニティスクールについて、学校と地域などが力を合わせ学校運営に取り組むことで、子どもたちにとって、よりよく、かつ特色ある学校づくりを進めていく良い制度ですが、この制度を導入する意義について伺います。

答 **（教育長）**…コミュニティスクールは、今後学校が社会の中で成り立っていくための制度であると考えます。

問 ぬくもり号の運行について、利用頻度にばらつきがあって混雑時に乗車できなかったり、停留所の間隔が長すぎるなど、利便性に欠けているといった意見を多く耳にします。ナンバープレートを緑ナンバーにすることでこれらの課題も解決し、利便性が向上すると思いますが、市の考えを伺います。

答 **（保健福祉部次長）**…緑ナンバー登録の研究も含めて、利用者や地域の意見を聞きながら、利用者のニーズに合ったぬくもり号の運行を目指すように、社会福祉協議会と協議を進めたいと考えます。

ぬくもり号